

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人
三木 勉

印刷部数11万1000部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円)
定価 五十円

けんせつ

東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

五輪後の再整備 不払いの懸念

五輪開催に伴う恒久施設や仮設施設の再整備が始まります。五輪・年延長や建設資材高騰などが重なり、契約トラブルが危惧されます。不払いの兆候などが見られたら、所属支部へ相談しましょう。

秋の拡大月間前半戦 困っている仲間へ声かけを急ごう



「情けは人の為ならず」と高山組織部長

【西多摩・書記・濱徹通信】西多摩支部では秋の分会5役学習会・活動者会議を8月29日に行ないました。当初は分会5役を対象として招集型で準備していましたが、コロナ対策のため分会2人人数を絞り、会場も支部会館や分会センターなど9会場に分けて、リモートでの開催となりました。参加は21分会66人でした。本部の中宿書記次長



参加者はサイレントでガンバロー三唱

9月5日、練馬支部は支部会議前半戦を開催しました。支部会館には89人、ズームを併用して9人の全体で97人が参加しました。会議の冒頭、福岡忠行委員長は主催者挨拶で、「コロナ禍だからこそ繋がりを深める組織の取り組みが重要です。今日と9月7・8日の分会決起学習会で討論を深め、10月の活動者会議後半戦に突入していきたい。成功の力は皆さん一人ひとりにかかっています」と述べました。池田直隆書記長の基調報告では、政府のオリ・パラを優先させたコロナ対策での失策などの情勢について報告し、春一番拡大、春の拡大月間の到達と課題を明らかにして、秋の大運動は「仲間増やし、使って9人の全体で97人が参加しました。」

練馬 相談リーフを活用し アンケートで要求聞き取り

秋の拡大月間が始まり3週間が経過しました。この間各支部は活動者会議や決起集会を開催し、「組織を減らさず増やして仲間を守る」「コロナ禍でも動きを止めずに行動に打って出る」といった意思統一を重ねています。

選挙・自治体要求」の3本柱と、後継者層との対話で組合結果を図るのの方針を提起。基調講演を行なったNPO法人医療制度研究会の本田宏医師からは、日本の医療制度の状況が曲げられて報道されている現状を批判し、選挙で政治を変えることの大切さを強調しました。

西多摩 「収入減ってないか」 声かけ広げ組合知らせる

感想文で寄せられた意見で「自分が特に感じたのが『建設アクション』で、生活と仕事を守る組合として、分会の中でも、もっと人と人が切に行動したい」（あきる野4）など、たくさんの意見感想がありました。高山組織部長の訴えでは、宣伝カー行動はコロナで収入が減少している仲間にも呼びかけてほしい事、地元の資格講習会、東京都の月次支援金、インボイス制度学習会、レトルト食品など秋の話題を仲間へ声かけを広げ、組合を知らせよう、「情けは人の為ならず（必ず自分に返ってくる）」と呼びかけました。最後に高山組織部長が無言で団結ガンバローをして終わりました。

組合員に寄り添い スタバ拡大で早くも48人

9月5日、スクエア荏原で活動者会議を開催、コロナ感染対策で人数制限し、55人が参加。佐藤忍委員長が「コロナ禍の中、組合員に寄り添った運動を進めよう。今日の学びを活かして月間の活動につなげてくださ」と挨拶。

これを受け、秋の大運動のDVDを視聴、そして五本木宏晃本部青年部長の講演「組合活動と私」と笠松浩之組織部長の秋の拡大月間方針を聞いた後、5つの分会で講演と方針の理解を深めました。「スツと訪問トタのしく対話トバツと加入ト書ト」。目黒支部のこの月間は「スタバ拡大」。分會会終了後の全体会で持ち寄り成果を発表。スターバックスをまねたエプロンを着けた「スタツ」が雰囲気盛り上げ、各分会の代表が加入書を持って登場。笠松部長から労いの言葉と「豪華」賞品を受け取りました。成果は48人、みどり、柿の木八雲、目黒桜、北部さくららの4分会が早くも目標達成です。青年部の音頭で団結ガンバロー。目黒支部は快調なスタートとなりました。

起では昨年の絶対話運動の経験を活かし、「へらしと仕事」の相談リーフレット2022-1を使って、困っている仲間へ最新の情報を知らせて組合への相談をすすめて、要求アンケートを集めて国や区への要求を聞き取っていかうと提起し、「支部一丸となって頑張っていくますのでよろしくお願ひします」と訴えました。最後に上原誠副委員長が閉会の挨拶を行ない、全員で団結を固めました。



持ち寄り成果を報告、目標達成し表彰を受けるみどり分会

これを受け、秋の大運動のDVDを視聴、そして五本木宏晃本部青年部長の講演「組合活動と私」と笠松浩之組織部長の秋の拡大月間方針を聞いた後、5つの分会で講演と方針の理解を深めました。「スツと訪問トタのしく対話トバツと加入ト書ト」。目黒支部のこの月間は「スタバ拡大」。分會会終了後の全体会で持ち寄り成果を発表。スターバックスをまねたエプロンを着けた「スタツ」が雰囲気盛り上げ、各分会の代表が加入書を持って登場。笠松部長から労いの言葉と「豪華」賞品を受け取りました。成果は48人、みどり、柿の木八雲、目黒桜、北部さくららの4分会が早くも目標達成です。青年部の音頭で団結ガンバロー。目黒支部は快調なスタートとなりました。

朝やけ

練馬支部の活動者会議前半戦で講演をした本田宏医師は、日本では戦争法案が安保関連法、共謀罪がテロ等準備罪というように、言葉をかえて真実を捻じ曲げてきたことを紹介していた。

政府答弁書は「従軍慰安婦」は「慰安婦」

教育の場でも同様なことが行なわれている。4月に政府は中学・高校教科書に掲載されている「従軍慰安婦」強制連行などの用語は適切でないとする政府答弁書を閣議決定していたが、教科書会社からこれらの記述を削除したり変えたりするといった訂正申請が出され、文科省は9月8日付で承認したそうだ。

教科書の歴史用語が政府に決定されてしまうこと

よいか。教科書の記述は学問の成果に基づくべきであろう。歴史的な意味が問われることがらを、政府の都合に合わせていたり、なかつたことにしたりすることは許されぬ。本田医師は、日本は言い換え上手な国だから注意が必要だと指摘していた。教科書での言い換えを許さず、真実を子どもたちに伝えていきたい。